

謙遜の相槌とほめの対象

上野聡子 (九州大学文学部)、上山あゆみ (九州大学人文科学研究院)

1. はじめに

会話を円滑に進めるためには、相槌が不可欠である。相槌については、従来、様々な研究がされてきており、曹(1994)は、「発話の中で発話順番を変えず、話し手の発話に対し、「同意している」あるいは、「話をうながす」などというある特定の機能を持ち、自由意思に基づいて、使われている表現」を「相槌」としている。本発表でも、基本的にこの定義を採用するが、「発話順番を変え」ていないかどうかは厳密に考慮しない。以下、話の主導権を握っている人を「話し手」、相槌を打つ人を「聞き手」と呼ぶ。

ほとんどの相槌は、話し手の事実報告に対する反応や、話し手の感情表出に対する反応である。本発表では、話し手が聞き手のことをほめたときに、聞き手が自分に向けられたほめに同意しない意思を示す場合に特化して、その使い分けについて考察する。ここで、聞き手が本心で同意しているかどうかは関係ない。話し手に、ほめに同意していないことが伝わるものは全て謙遜とする。

謙遜の役割をする相槌の表現としては、(1)のようなものがある。

- (1) いえいえ、いやいや、そうかなあ、そんなに褒めていただけるなんて...、それほどでもないです、全然です、そんなことないです、まだまだです、たいしたことないです、たまたまです、運が良かっただけで、自分でもびっくりです、信じられないです

本発表では、褒められた内容によって、このうちのどの表現を用いることができるかを観察した結果を報告する。

2. 先行研究

謙遜の相槌を詳しく扱っている論文は、管見の限り見当たらない。謙遜するのは褒められた場合と考えられるが、張(2014)は初対面の被験者同士の会話を分析し、人はほめられたとき「自画自賛を避けるためにさまざまな方法を用いて応答する」と述べている。また、ほめの対象が「聞き手自身」か「聞き手が属する場所」かで応答の仕方が変わることを主張している。しかし、それら二項では主なほめの種類をカバーできていない。本発表では、ほめの対象によって返答が異なるという前提に立った上で、新たな基準で謙遜の相槌を分類する。

3. ほめの対象による相槌の使い分け

以下では、ほめの対象として、功績、能力、性格、外見、所属、所有物、家族、の7つを区別し、それぞれについて、どのような謙遜の相槌が使用可能であるかを提示する。

3.1. 功績

「功績」は目に見える結果として残っているという点で、「能力」と区別される。例えば、「100mを11秒で走れる」は能力、「100m走で優勝した」は功績である。「功績」には競争相手や審査等の外部の環境、つまり自分で統御できない部分に関わるため、褒められた内容自体は否定せずそれが自分の力によらないことを伝える謙遜方法もある。したがって、自分が褒められるべきではないとして褒めの対象から自分を引き離す表現((2)(3)の下線部)も使われ

る。これらが使われるのは「功績」の場合に限り、外部要因が影響しにくい「能力」、「性格・外見・所属」には原則使えない。

(2) X: 大会で優勝したんでしょ?すごいね。

[功績]

Y: それほどでもないです/ 自分でもびっくり
りです/ 運が良かっただけで/ 信じられ
ないです

(3) X: この前テストで100点とっただけ! 天才! [功績]

Y: それほどでもないです/ たまたまです

3.2. 能力

「能力」は自分の中に備わっているもので、ほめの対象が「能力」の場合には、「たまたま」を使って偶然性を示したり、「信じられない」「びっくり」といって自分でも驚きの結果であったことを示したりするのは不自然である。同様に、恒常的に持っている「能力」に運の要素は関係しないので、「運が良かっただけ」も使えない。

(4) X: 英語喋れるのすごいね! [能力]

Y: そうかなあ/ それほどでもないです/ ま
だまだです/ たいしたことないです/
?たまたまです

(5) X: ピアノ弾けるらしいね! 尊敬する!

[能力]

Y: いえいえ/ そんなに褒めていただけるな
んて.../ まだまだです/ たいしたこと
ないです/?自分でもびっくりです

3.3. 性格・外見・所属

ほめの対象が「性格・外見・所属」の場合、内容を特定せず相手の褒めを表面的に否定している表現のみ使える。

(6) X: 本当に背高いよね。うらやましい。

[外見]

Y: いやいや/ そうかなあ/ 全然

(7) X: Yって本当に優しいね。 [性格]

Y: そうかなあ/ それほどでもないよ/ そんなに褒めてくれるなんて...

(8) X: ボランティアクラブに入ってるんでしょ?すごいね。 [所属]

Y: いやいや/ 全然です

但し、「そんなに褒めていただけるなんて...」は、かなり褒められたときでないと不自然である。

(9)では、XはYの態度を「いいね」と軽く褒めただけなのにYが「そんなに褒めていただいた」と褒めの程度を上げているため不自然である。

(9) X: Yさんっていつも一生懸命でいいね。

[性格]

Y: ?そんなに褒めていただけるなんて...

「能力」に対しては使えた「まだまだです」は、自分がまだ褒められるレベルに達していないことや向上の余地があることを含意しているため、「能力」や「功績」に比べて自分の努力で変わらない「性格/所属」には使えないと考えられる。「たいしたことないです」は、相手からの「すごいことをした」または「すごいことができる」という評価に対して、自分はそれほどのことをしていないと伝える言葉なので、「性格/外見」に使うと不自然である。

(10) X: 本当に背高いよね。うらやましい。

[外見]

Y: ?まだまだです/?たいしたことないです
また、「能力」の節で述べたのと同様の理由で、以下は容認できない。

(11) X: Yさんって本当に優しいね。 [性格]

Y: ?たまたまです/?自分でもびっくりです

(12) X: ボランティアクラブに入ってるんでしょ?すごいね。 [所属]

Y: ?自分でもびっくりです

ただし、「所属」をある種の「功績」と捉えた場合、(2)(3)下線部の表現を使っても違和感がない。(13)では、Yの頭の良さや努力があったから東京大学に

入学できた、という意味で結果を褒めていると捉えられるので、Yは以下の表現を用いて自分のすごさが要因ではないことを伝えることもできる。

- (13) [大学入学後の高校同窓会で]
X: 東大生なの? すごいね。 [所属]
Y: 運が良かっただけ/ 自分でもびっくりだよ

3.4. 家族

自分の「家族」を褒められた際にも謙遜することがある。話し手があえて自分に伝えてきたことから、直接的な対象でなくても聞き手が評価内容に関係するという話し手の意図を聞き手が感じるためである。ほめの対象が「家族」の場合と友人の場合を比較するとよく分かる。

- (14) [ZはYの妹]
X: Zちゃんっていつも成績トップらしいね、頭いいね。
Y: いやいや、全然
- (15) [WはYの友人]
X: Wっていつも成績トップで、頭いいよね。
Y: そうだよな!/?いやいや、全然

Yと関係があるという点では妹のZも友人のWも同じだが、明らかに(15)は変である。(15)でYが「いやいや、全然」と言うと、実はYとWは仲が悪いという感じがする。そもそも、話し手であるXが(14)では「頭いいね」と言っているのに対して(15)で「頭いいよね」と言っており、前者ではYとZを、後者ではYとXをひとまとまりにしてZ・Wについて述べている。(16)のように友人について話す際に「頭いいね」を使うと不自然になることから、Yの友人Wは聞き手Yとひとまとまりにはできないことが分かる。

- (16) [Wの友人Yに対して]
X: ?Wっていつも成績トップで、頭いいね。

以上より、話し手が聞き手の「家族」を褒める際には、「家族」と一緒に聞き手を褒める意図があるように聞き手は認識し、謙遜の相槌を打つ。

その場合の表現は、おおむね自分について褒められた場合と同様である。

- (17) X: Yさんの息子さん、大会で優勝したんでしょ? すごいですね。 [息子功績]
Y: いやいや、運が良かっただけで

息子 \geq 妹 $>$ 親の順に使える相槌が多く自分の場合と近い傾向がある。息子や妹に対しては自然だが、親に対するほめに「たいしたことない」と言うと、偉そうになる。

- (18) X: Yさんの息子さん/ 妹さん、すごく頭いいって聞きました。 [息子/妹能力]
Y: たいしたことないですよ
- (19) X: Yさんのお母さん、すごく頭いいって聞いたよ。 [親能力]
Y: ?たいしたことないよ

背景として、息子の能力等は親である自分の影響力や努力も関係するため自分に近くなる一方、親は自分が育てているわけではないのでほめを否定しにくいことが推測される。

3.5. 所有物

「所有物」を褒められた際にも、「家族」の場合と同様に聞き手の受け取り方によって以下のようになる。

- (20) 物そのものを褒められたときには、謙遜しない
- (21) 物を選ぶ感覚や経済力、物と一緒にあった外見を褒められたときは、それぞれ「性格」、経済力(「能力」)、「外見」を褒められた場合と同様の表現を使う
- 物そのものを褒められている場合にはそもそも謙遜しない。(22)で「そんなことないよ」というとかなり不自然である。謙遜ではなく筆箱を気に入っていないかのような印象を受ける。

(22) X: その筆箱かわいい! [所有物]

Y: ありがとう/ 私も気に入ってる

??そんなことないよ

以下、聞き手の捉え方によって使える表現に違いが出ることを示している。(23a)(23b)では、Xの発言は全く同じであるがYの受け取り方が異なり、それに応じて相槌の自然さも異なっている。(23a)のようにYが「服」そのものに対するほめとして受け取った場合、謙遜するのが不自然に感じられる。一方同じ発言でも、(23b)のように「服」自体だけではなく(24)と同様の内容を伝えているとYが捉えると、「性格/外見」の場合と同じ表現が使われる。

(23)a. X: その服すごくおしゃれ! [所有物]

Y: ??いやいや/??そうかなあ/??全然です/??

そんなことないです

b. X: その服すごくおしゃれ! [性格/外見]

Y: いやいや/ そうかなあ/ 全然です/ そんな

なことないです

(24) X: Yさんっていつもおしゃれ! [性格/外見]

Y: それほどでもないです/ 全然です/ そんな

なことないです

また、以下では、豪邸を所有できるYの財力に感嘆していることが伝わってくるので、「能力」を褒められた場合と同じ表現が自然に表れる。

(25) X: Yさんのお家、すごい豪邸ですね!

[能力(所有物)]

Y: それほどでもないです/ 全然です/ たい

したことないです

4. おわりに

本発表では、ほめの内容によって、用いられる謙遜の相槌表現を整理した。「家族」や「所有物」について聞き手の捉え方による違いも明らかにした。今後、状況や聞き手の捉え方にあまり依存しない分類を目指したい。

ほめの内容ごとに使える謙遜の相槌表現をまとめると、以下ようになる。

(26) 聞き手の「功績」を褒められた場合、(1)の全ての謙遜の相槌を使うことができる。

(27) 聞き手の「能力」を褒められた場合には、(1)のうち、他人事のような表現や偶然性を示す表現である、自分でもびつくりです、信じられないです、たまたまです、運が良かっただけで、以外の表現が使われる。

(28) 聞き手の「性格・外見・所属」を褒められた場合に使える表現は、いえいえ、いやいや、そうかなあ、そんなに褒めていただけるなんて・・・、それほどでもないです、全然です、そんなことないです、に限られる。

(29) 聞き手の「家族」の「功績」「能力」「性格・外見・所属」に対する褒めには、原則、それぞれ自分の「功績」「能力」「性格・外見・所属」を褒められた場合と同じ表現が使える。

(30) 聞き手の「所有物」を褒められた場合には、物そのものに対するほめには謙遜せず、物を選ぶ感覚や経済力、物と一緒になった外見を褒められたときは、それぞれ聞き手の「性格」、経済力(「能力」)、「外見」を褒められた場合と同様の表現を使う。

謝辞

本発表はソフトバンクロボティクス株式会社との共同研究の助成を受けたものである。

参考文献

曹 永湖(1994)「談話における相づちの機能と運用」、『東北大学文学部日本語学科論文集』 4巻, pp. 63-74.

張 承姫(2014)「相互行為としてのほめとほめの応答—聞き手の焦点ずらしの応答に注目して—」、『社会言語科学』 第1号, pp.98-113.